

栃木県でも英語教育改革を

開倫塾

塾長 林明夫

1. グローバル化が急激に進展しているため、日本の英語教育が 2018 年を目標に大幅に変わろうとしています。

例えば、2018 年から小学校では、3・4 年生は週 1 ～ 2 コマ、5・6 年生は週 3 コマ程度、英語の授業が行われます。

2. 中学校では授業を英語で行うことが基本となります。高校では授業を英語で行うとともに、発表や討論、交渉などを英語で行うことを目指します。

大学では英語以外の授業も英語で行われる学部、学科が激増してきます。日本から海外へ留学する学生も増え、同時に海外からの留学生もどんどん来るようになります。

3. この動きを加速させているのが 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催です。そこで、栃木県でも 2020 年を見据えて、独自の英語教育を全面展開することを提言します。

4. そのためには、これからの英語教育をどうしたらよいかを、文科省の英語教育改革の動向を見据えながら、本音で、本格的に話し合う場を県や市町の教育委員会に発足することを提案します。

5. そこでの議論や提言を踏まえて、独自の英語教育を強力に推し進めて頂きたい。その際には、カリキュラムの開発、先生の実力強化、マネジメント体制の構築などと同時に、小中の連携、中高の連携、高大の連携も必ず行って頂きたい。

6. ちなみに、足利市では足利市教育委員会内に外部有識者を多数お招きし、足利市英語教育プロジェクト会議を発足。私も委員の一人として参加。一年かけて熱心な議論を積み重ね、本格的な提言を策定。現在、その工程表に基づき改革が進み、市教育委員会と先生方の努力と協力で、足利市の英語教育は日本でも有数のレベルにまで到達しつつあります。

ALT の先生方の活動もすばらしく、私も市民として誇りに思うほどです。

7. 小学 3 年生から学校で英語を習うようになると、中学校や高校での英語教育の内容も大幅に変わります。英語以外の教科を英語で学んだり、英語以外の第 2 外国語を小学校から学んだりする時代が必ず到来します。その準備もぬかりなく行う必要があります。

8. この英語教育改革の実現のためには教育委員会や先生方の負担も激増すると予想されます。十分活動できる環境整備もお願いいたします。